

いおワールドかごしま水族館

「生きる」を哲学にした展示

鹿児島県の海は、与論島まで、南北600kmにも及ぶ広大な海だ。そこには、活火山桜島が中核を占める錦江湾や、南西諸島のサンゴ礁、ヒルギ科植物などが生育するマングローブの海岸など、バラエティに富んだ環境が存在する。いおワールドがこしま水族館は、その鹿児島の海をベースに展示がなされた水族館で、ラッコとアマゾンの水槽以外は、すべて鹿児島県の海で構成されている。

どこにでもある黒潮の海の大水槽も、本場鹿児島ではひと味違う。「生きる」をテーマにしたこの水族館では、展示するジンベエザメを、5・5

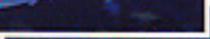
mを超える前に海に放流する方式をとっている。幅25mの大水槽であっても、20mにも成長するジンベエザメの天寿をまつとうするまで飼育できない、という考え方による。実際にまるで生き方だが、なかなかできないことだ。そのこだわりに敬意を表したい。

異世界生物サツマハオリムシ
水族館をいたたく錦江湾では、海底から火山性物質が吹き出す。その硫化水素をエネルギーにして海底で生まるのがサツマハオリムシだ。この本場館では、世界で初めて小さなエビがたくさん付いている。海水の映像でしか見られる。深海の映像でしか見られ

なかつた異世界が、実際に目の前にあることに感動する。

もう一つの注目の展示は、マングローブの海辺を現した水槽だ。潮が満ちれば根が塩分を含んだ水中に没する植物ヒルギの仲間は、木を活性化し、さらに、落ちた葉が底葉上となつて、彼らに食料を提供している。備え付けられている双眼鏡を使って、シオマネキなどの生物を観察すると、まるでフィールド観察をしているようだ。

⑦. ジンベエザメに目を奪われずに周囲を見たせば、クロマグロやカツオが泳いでいる。よく観察すれば、小さなエビがたくさん付いている。ジンベエザメの泳ぐ黒潮大水槽は、25mの幅に奥行き15m、深さ5m。壁の色、明度の調整によって、深い青色が出る演出がされていてとても美しく印象的だ



⑦. ジンベエザメの泳ぐ黒潮大水槽は、25mの幅に奥行き15m、深さ5m。壁の色、明度の調整によって、深い青色が出る演出がされていてとても美しく印象的だ



↑清潔な感じのイルカシヨースクジアム。ショーの時間だけでなく、地階の水中窓、満潮時には海につながる水路でも、イルカを見ることができる



↑南西諸島の海。サンゴ礁の海を巨大なタマカイが泳ぐ。どの水槽も上下の高さが高く、臨場感を感じる



↑実物のヒルギ科植物が植えられたマングローブの水槽は珍しい。備え付けの双眼鏡で、トビハゼやシオマネキを観察する



↑サンゴのボリップを観察するため、拡大できるルーペが付いている



↑この水族館のラッコ水槽は見やすいが、ラッコの食事どきには一瞬で山のような人が集まる



↑海藻の茂る岩礁を切り取ってきた水槽に、海全体の生命感を感じる



↑アマゾン水槽はとても広々としている

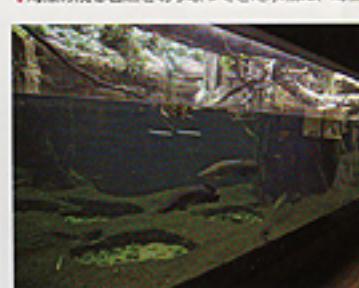


PICK UP

サツマハオリムシ



一般的の生物には有毒な硫化水素を取り入れて生きている。板島のある錦江湾ならではの異世界生物。



↑アマゾン水槽はとても広々としている



TEL

099-226-2233
鹿児島県鹿児島市本郷新町3-1
<http://www.ioworld.jp/>

住所

9時30分～18時(GW、夏休み期間中の土曜、お盆期間などに「夜の水族館」の開催あり、詳細は要問い合わせ)。入館は閉館1時間前まで

URL

12月の第1月曜から4日間

開館時間

大人500円、小人(小・中学生)750円、幼児(4歳以上)350円

休館日

大人3000円、小人(小・中学生)1500円、幼児(4歳以上)700円

入館料

JR鹿児島中央駅から市電5分、水族館口下車徒歩8分(またはバス約15分、水族館前・桜島桟橋下車すぐ)鹿児島市内方向へ約20分周辺の県道を利用

年パスポート

交通

駐車場